

The Three-Currency System of Edo Japan

江戸の三貨制度

金・銀・銭が並立した世界でも類のない通貨制度。両替商と札差が築いた日本金融の原型。

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

WHAT HAPPENED

三貨制度とは: 金・銀・銭の並立

江戸時代の日本には、3つの異なる通貨が同時に流通していた。これを「三貨制度」と呼ぶ。

- 金貨（小判・一分金） -- 主に江戸を中心とする東日本で流通。計数貨幣として、枚数で価値を数えた
- 銀貨（丁銀・豆板銀） -- 主に大阪を中心とする西日本で流通。秤量貨幣として、重さで価値を量った
- 銭貨（寛永通宝など） -- 全国の庶民の日常取引で使用。少額取引の媒介

一つの国に3つの通貨体系が並立する。これは世界の通貨史でも極めて珍しい形態だった。現代の感覚では非効率に見えるが、当時の日本経済の構造を反映した合理的なシステムでもあった。

WHY IT HAPPENED

なぜ3つの通貨が並立したのか

三貨並立の背景には、東西の経済構造の違いがある。

江戸は武家の都であり、幕府からの俸禄（米）を金に換えて消費する経済だった。取引は定額的で、計数貨幣としての金貨が適していた。

一方、大阪は「天下の台所」と呼ばれた商業の中心地である。米・木綿・油などの大量取引では、取引額が毎回異なる。重さで自在に量を調整できる秤量銀貨が、商人の実務に適合していた。

銭貨は、金や銀では額面が大きすぎる庶民の日常取引を支えた。食料品や日用品の売買に不可欠な、小額決済の手段である。

つまり三貨制度とは、武家経済・商人経済・庶民経済という3つの異なる経済圏が、それぞれに最適な通貨を使い分けていたシステムだった。

FINANCIAL INFRASTRUCTURE

両替商の役割 -- 金融インフラとしての存在

3つの通貨が並立する以上、それらを交換する仕組みが不可欠だった。その役割を担ったのが「両替商」である。

両替商は単なる通貨交換業者ではなかった。金・銀・銭の交換レートは日々変動しており、相場を読む専門的な知識が求められた。これは、現代の外国為替市場の原型とも言える。

さらに有力な両替商は、預金の受け入れ・貸付・為替手形の発行といった銀行機能も果たしていた。大阪の鴻池・三井・住友といった豪商は、両替商として蓄積した金融技術を基盤に、後の日本の銀行・財閥へと発展していく。

三井・住友・鴻池。現代日本を代表する金融グループのルーツは、江戸時代の両替商にある。日本の銀行業は、西洋からの輸入ではなく、独自の金融文化から内発的に発展した。

SAMURAI FINANCE

札差 -- 武士への金融サービス

武士の収入は米（禄米）で支払われた。しかし日常の消費には金銭が必要である。この禄米を換金する役割を担ったのが「札差（ふださし）」と呼ばれる商人たちだった。

札差の業務は単なる米の売却代行にとどまらなかった。やがて、将来受け取る予定の禄米を担保にした前貸し（融資）へと発展した。これは、将来のキャッシュフローを担保にした信用取引の一形態である。

一部の武士は借金がかさみ、数年先の禄米まで前借りするような状態に陥った。札差にとって武士は「確実な収入源を持つが、常に資金不足の顧客」であり、現代で言えばサラリーマン向けの消費者金融に近い構造だった。

これは事実として記録されている。解釈として付け加えれば、金融サービスが支配階級（武士）と商業階級（町人）の経済的な力関係を逆転させていった過程とも読める。

WHAT CHANGED

何が変わったか

三貨制度によって、日本初の為替市場が自然発生した。金銀比価の変動が経済に影響を与え、両替商が金融の中心に座った。江戸と大阪の経済圏が通貨を通じて結びついた。

LEGACY

今に残っているもの -- 日本の銀行文化の起源

三貨制度そのものは明治の通貨改革で終わりを迎えた。しかし、そこで培われた金融文化は現代にまで続いている。

- 両替商の技術は明治以降の銀行制度の基盤となった
- 大阪の商人文化は、日本の金融・商業の中心としての伝統を形作った
- 為替手形の仕組みは、現代の決済システムの原型である
- 信用に基づく前貸しの慣行は、日本的な融資文化へとつながった

日本の金融が西洋のモデルを単に模倣したものではなく、独自の歴史的基盤を持っていること。これを知ることは、日本の金融市場を理解する上で重要な視点となる。

FOR INVESTORS

投資家にとっての意味

三貨制度の歴史は、投資家にいくつかの普遍的な教訓を与える。

- 通貨制度は固定されたものではない。社会の構造変化に応じて、通貨の形も変わる
- 複数の通貨・資産が並立する環境では、交換レートの変動そのものがリスクであり機会となる
- 金融インフラ（両替商=銀行）は、通貨制度が複雑であるほど重要性を増す
- 信用は支配階級の力をも凌駕する。金融の力学は、政治的な力関係とは独立して動く

現代においても、為替変動・決済インフラ・信用供与の構造を理解することは、投資判断の基盤である。江戸の三貨制度は、その原型を日本の歴史の中に見せてくれる。

KEY TERMS

関連用語

三貨制度

江戸時代に金貨・銀貨・銭貨の三種の通貨が並立した制度。

両替商

三貨の交換を行い、預金・貸付・為替など銀行機能も担った商人。

札差

武士の禄米を換金・前貸しした金融業者。

金遣い

江戸を中心とした東日本の金貨経済圏。

銀遣い

大阪を中心とした西日本の銀貨経済圏。

丁銀

秤量貨幣として重さで価値を量った銀貨。

小判

計数貨幣として枚数で価値を数えた金貨。

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

投資は自己責任です。このサイトの内容は情報提供を目的とし、投資助言ではありません。